

17

# 飛騨一宮水無神社

ひだいちのみやみなしじんじゃ

平安時代

飛騨一宮水無神社



時代 平安時代

場所 高山市一之宮町 5323

飛騨一円を崇敬者とし、除夜祭・歳旦祭は飛騨一円を始め県内外からの参拝者が多い。例祭は5月2日、ひなまつりは4月3日で日本唯一の「生きびな祭」として有名である。創立年代は不詳、祭神は水無大神など、位山を「神体山」としている。

第38代天智天皇の8年(669)、位山の檼材で作られた笏を朝廷に献上してから、檼に一位の樹名を賜わり、山は位山と称するようになった。第45代聖武天皇の天平12年(740)、天皇の仮宮殿において、近江国の新羅楽・飛騨楽が奏された。いま一之宮に「神代踊」として伝存する。第46代孝謙天皇の天平勝宝年中(750～)、飛騨国造高市麿が上奏して、当神社は国の「一宮」と定められた。第60代醍醐天皇の延長5年(927)には延喜式が出来、神祇官神名帳に飛騨国8座の首班に列し、国の総社をも兼ね、国司は毎月巡拝して幣帛を奉ることとなる。第76代近衛天皇の仁平元年(1151)、大江朝臣橘助高卿が一宮の神主に補任され、神主家としてしばらく続いた。第96代後醍醐天皇の建武2年(1335)、国司姉小路家綱卿より、位山一位の御笏を献上し、天皇より御冠・袍・笏等の下賜があり、一宮に納める。天正13年金森長近が飛騨に攻め入り、三木・一宮・山下の神主家の主流が討たれたが、子孫が継続して神主家をつないでいる。



水無神社 鳥居



水無神社 絵馬殿



水無神社 神門



水無神社 本殿



神馬舎 (祈雨の神馬、祈晴の神馬)



祈雨の神馬、  
祈晴の神馬 石碑